

● 公開講座 ●

医療関係者向け公開講座 ～お陰さまで満員御礼～

増田智栄子

いずみ野皮ふ科

3月31日、袋秀平先生からメールが入った。「プログラムの準備で大変なところお騒がせします。31日で公開講座の受け付けが締め切りになりますが、現在の応募状況はいかがでしょう。さらに声掛けしてよければ、そのようにしようかと思いますが」。

コンベンション会社の東友さんに問い合わせ、4月2日、「FAXは796名、メールは93名、合計889名です。申込みは終了した方が良くと思います」と返事が入った。

「ヤッター」。4月始めの緊迫していた実行役員の雰囲気、風穴をあけた瞬間だった。

思えば、「公開講座をやろう。それも一般市民向けではなく、医療関係者向けにしたほうがやりがいがある」と栗原誠一会頭の発案があったのが、学会1年前の平成25年2月。

そのころは役割分担を決めていた時期で、私に健保か公開講座のどちらかを担当するようにと言われ、健保は性に合わないの、公開講座を担当すると申し出た。ただし、実行力、集客力のある袋先生と一緒にするという条件にした。

対象は神皮在宅医療勉強会に参加しているような外来看護師、訪問看護師、介護士が中心で、プラス薬剤師を想定。

さて、テーマを何にするか。会頭からは参加者にも有益な美容がいいのではとアドバイスがあったが、それだけでは知識欲のある訪問看護師には受け入れられないのではないかと思い、皮膚科在宅医療と美容部門の2構成にしようと考えた。NHKの「ためしてガッテン」のように、素人でもよく分かって満足感の得られる、テンポ良い内容・時間配分を目指し、日皮主催の看護師向け講座や、神皮の皮膚の日イベントを参考に構成を考えた。

在宅部門は袋先生に考えていただき、結局、皮膚科在宅の原点である褥瘡と疥癬の2演題にしぼり、これはじっくり聞くことにした。

美容部門は、私が企画することにしたが、さてどうするか。皮膚の美しさは、流行りの光治療やレーザーで皮膚をいじめて鍛えるアンチエイジングよりは、健やかに慈しむスキンケアが要と日ごろから思っているの、スキンケアに主眼をおくことにした。演者を決めるために4月の名古屋の日臨皮では、スキンケア関連のセミナーやシンポジウムを一言半句もらさぬように聞いてきた。子どものスキンケア、大人のスキンケア、そして皮膚の美しさの基礎となる食事についての演題に決め、飽きさせないよう、化粧品会社による実演を間に埋めていこうと考えた。私は、若々しさは肌だけでなく、毛髪も大事と感じているので、頭皮のスキンケアも入れてみた。4月中には講師の先生方の内諾もいただきプログラムはほぼ完成した。

ネーミングは、忘れもしない4月始めの横浜市皮膚科医会の懇親会で、袋先生がサラッと「『仕事に役立つ楽しい皮膚科の勉強会』でいいんじゃない」と発案され、響きも語呂もいいので、「あっ、それいい」と瞬時に決まった。

しかし、そのころ、東友さんに「公開講座は人が集まりませんよ、せいぜい200～300人ですよ」と水をさされ、今度はどのようにして集客するかが課題になってきた。1,004名の会場にパラパラの参加者はゴメンだ。

夏、神奈川県医師会主催医学会総会が11月23日にあり、皮膚科が発表する番だがどなたかいないかとのメールが入り、ちょうど疥癬の集団感染の事例があるから、これを発表して医師会に公開講座の宣伝をしようと思いい立ち、柄にもなく手あげをした。夏はこの発表準備に追われた。

そして、秋から冬。晩酌もそこそこに夕食終了後パソコンに張り付き、お手紙書きや草案作りが、日々夜の仕事となった。医師会や介護福祉士会などへの公開講座後援依頼書、ポスター原案、チラシ作り、年が明けてチラシ完成後は何枚刷ってどこに送るかの試算と次から次へと仕事は続いた。チラシは6,600枚刷って、お決まりの部署以外はほとんど袋先生に配布していただいた。

私自身も、人前でしゃべるのは苦手だが、地元区医師会の会議や集会に、この時ばかりは足を運んで宣伝させてもらい、特養施設、訪問看護ステーション、薬局など医療関係者とみれば「ためになるから来て来て」と配りまくり、目一杯広報活動をした。

1ヶ月前、実演予定のノブさんやポーラさんから、東友さんに相談のメールをしても返事がないがどうなっているのかと問い合わせがあり、展示や講演は私たちが先に決めていくことにした。実演時の照明もメーカーさんが用意し、企業展示でのサンプル提供は、スタンプラリー形式で全てに立ち寄れるように計画した。

直前は、ひふの日イベント台本を参考に、登壇、ハケなどの動作を混ぜての台本を作成し、1分も無駄にしないよう準備した。

そしていよいよ当日、開場12時から来場者が並び始め、ホワイエでの展示ではロープを張るような盛況ぶりとなった。講師の先生方には興味をひくようにテンポよく話していただき、真田弘美先生のゲスト司会にも助けられ、実演も中身の濃いスパイスとなった。隙間なく埋め尽くされた会場をみると、皆さんが楽しそうに集中されていて、会場が一体となったように感じられた。

参加者は925名となり、袋先生、真田先生、企業展示の方々と「良かった、文字通り楽しい皮膚科の勉強会になったね」と喜びを分かち合った。

後日、ホームページで登録された名簿が幸い残っていて、宮崎、大分、新潟、京都など遠方の方の参加もあったことに驚いたと同時に、多くの方に支持されたとうれしく思った。

参加者からは、お土産もうれしかったが、講演全てが面白く、今度はもう少し掘り下げたものをお金を出してでも聞きたいとの声もいただいた。

大島椿さんからは「これをきっかけに全社一丸でDVD制作に取り組み、ほんとに絆が強まりました」と感謝された。

常に相談に乗っていただいた袋先生に助けられ、呼び込んで戴いた先生方皆様のお陰で医療関係者向け公開講座は満員御礼となりました。私自身もいろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。



受付で、サンプル引換証を配布し、各展示ブースに立ち寄ってもらい、サンプル資料の引換時にチェックを入れる（スタンプラリー方式）

公開講座 ～パシフィコ横浜大ホール大入り計画～

袋 秀平

ふくろ皮膚科クリニック

毎回、日臨皮総会の際に併催される公開講座ですが、日臨皮という団体が、特定の地域で一般市民を対象とする講座を行うことに意味があるのか、実は疑問に思っておりました（横浜市皮膚科医会の市民公開講座や、神皮のひふの日イベントは、もちろん有意義ですが）。今回、医療・介護関係者向けとしたのは正解であったと思います。

私は公開講座担当ということで、増田智栄子先生をサポートするようにご指名いただきました。協賛いただく企業との連絡や指示、全体の統括は増田先生にすべてお任せしました。指揮系統は一本に絞った方が良かったからです。サボっていたわけではありません。本当です。その分、私は集客に注力しました。日本褥瘡学会や神皮在宅委員会のアンケートや調査などで、さまざまな施設に連絡を取ってきた経験が生きたと思います。今回も、県内の全訪問看護ステーション、横浜市の全地域ケアプラザと全特別養護老人ホーム……等々、700ヶ所以上をピックアップして、エクセルに入力（これは結構大変でした）し、宛名ラベルを作成いたしました。宛名貼り、チラシと手紙の封入は家族で行い、内職のようでした。

当日はあつという間でしたね。25日の会頭招宴の席で、真田弘美先生が「始まってしまえば、終わったも同然」と言ってくさいましたが、そのとおりでした。運営については若干心配でしたが、ノブの鶴見様をはじめとするスタッフの方々のおかげもあり、無事に終わりました。大ホールの楽屋が実にわかりにくい場所にあったことは驚きましたけど。

会の終了後間もない5月初めに、どこの施設の方が来て下さったかチェックしようと思ったのですが、当日せっかく書いていただいた登録カードがあつという間に処分されていたようで、見ることはできませんでした。そういう仕事だけは早いのだなと、増田先生と一緒に感心いたしました。ネット経由での申し込み記録（100名強）は残っており、見せていただきましたが、結構遠方からの参加者も多く、これは企画（講演内容）が良かったからと思っております。

パシフィコの大ホールが埋まるわけないだろう、という外野の声もちらほら聞こえてきておりました。私はがんばれば7割くらいは固い、と本気で思っておりました。最後の方は申し込みがどんどん増えて、900名を超えたあたりで、それ以降のお問い合わせにはお断りをしてしまいました。定員オーバーすると消防法違反となってしまうのでハラハラしましたが、925名ということでめでたしめでたし、栗原誠一先生がお縄にならなくてよかったです。数字の問題だけでなく、それだけ多くの方々に皮膚科医の活動や役割などを認識していただけたことが重要でした。それぞれに参加の勧誘をしてくださった神皮会員の先生方にも御礼申し上げます。

最後になりましたが素晴らしい講演をして下さった和田康夫先生、海老原全先生、畑三恵子先生、足立香代子先生、お手伝いいただいた各企業のみなさま、またコメンテーターとしてご多忙の中おつきあいただいた真田弘美先生に、心より感謝申し上げます。



ノブ、ポーラファルマ、大島椿、アクセース、マルホ、興和創薬、ケーブ7社の展示



満員御礼



満員御礼



ゲスト司会の真田弘美先生と3人で、息の合った司会を展開

医療関係者向け
公開講座

主催：第30回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会
医師・薬剤師・看護師・介護士・医療関係の方々



仕事に役立つ

楽しい皮膚科の勉強会

褥瘡、疥癬、分かっているようで分からない日ごろの悩みにお答えします。
また、明日からの仕事にそしてあなた自身の若さを保つために、
スキンケアの大切さを学びましょう。

参加費無料

先着1,000名様まで入場

参加ご希望の方は
裏面をご覧ください

- 日時 **2014/4/27(日)** 13:00-16:00
開場 12:00
- 場所 **パシフィコ横浜 会議センター1Fメインホール**
- 司会 **増田智栄子**先生(いずみ野皮膚科) **袋 秀平**先生(ふくろ皮膚科クリニック)
- ゲスト司会 **真田 弘美**先生(東京大学医学系研究科老年看護学・創傷看護学)

I 褥瘡と疥癬

- ① 13:00-13:30 **褥瘡講座** …………… **袋 秀平**先生(ふくろ皮膚科クリニック)
- ② 13:30-14:00 **疥癬講座** …………… **和田 康夫**先生(赤穂市民病院)

～ 休憩 ～ お茶とお菓子

II スキンケアとアンチエイジング

- ① 14:20-14:40 **こどものスキンケア** …………… **海老原 全**先生(慶應大学皮膚科)
- ② 14:40-15:00 **大人のスキンケア** …………… **畑 三恵子**先生(高野医科クリニック)
- ③ ～実演～ **顔のスキンケア実演**(常盤薬品工業ノブ事業部)
- ④ ～実演～ **頭皮のスキンケア実演**(大島椿)
- ⑤ 15:15-15:35 **アンチエイジングな食事** …………… **足立香代子**先生(せんぼ東京高輪病院栄養士)
- ⑥ ～実演～ **医療スタッフにおすすめのホスピタリティーメイク**(ポーラファルマ)

- 企業展示 スキンケア用品・医薬品・化粧品などの企業展示も開催予定
- 後 援 神奈川県医師会、神奈川県病院薬剤師会、神奈川県看護協会、神奈川県介護福祉士会

*参加ご希望の方は、裏面の申込書にご記入の上、お申込みください。

*当日参加も受け付けますが、茶菓と化粧品のサンプル等の準備がありますので、参加人数多数の場合は事前申し込みされた方を優先とさせていただきます。

第30回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会
ホームページ

<http://www.mtoyoy.jp/jocd30/>